

「堂々と走り切った」

自転車・垣田 家族が現地応援



パリ五輪の自転車会場前で、レースを直前に控えた垣田真穂へエールを送る家族=9日、パリ郊外

【パリ愛媛新聞】渡部竜太郎「堂々と最後まで走り切った」。パリ五輪の自転車トラック会場には9日、女子マディソンに出場する垣田真穂(19)と早大、松山学院高出の家族5人が、古里の北九州市から応援に駆けつけた。垣田の似顔絵が描かれたその日のTシャツとつちわを用意し、熱い声援を送った。

垣田はチーム最年少で五輪初出場。6日の女子4000以団体追い抜き予選で日本記録を更新するも10位に終わり、突破できなかった。父親の裕司さん(46)は、五輪の舞台に立った娘を「堂々と走り切った」と称賛。マディソンの前には、ペアを組む同じ福岡県出身の内野艶和(22)と協力し「19歳の若さで最後まで頑張ってほしい」と激励した。垣田は兄の力輝斗さん(21)の影響で小中学校時代はサッカーに打ち込んだ。力輝斗さんは「当時から負

「松学の思いを背負って躍動してくれた。誇りに思う」。母校・松山学院高自転車部の恩師や後輩たちも映像で垣田の走りを見守り、健闘をたたえた。3月のネーションズカップで優勝し、今回メダルも期待されていたマディソン。岐阜県「監督(41)は「どうにもならない展開ではな

はず嫌いで、朝は一緒に自練習をしていた」と回想。レースを控えた妹に「メダルに関係なく、悔いが残らないよう力を出し切ってくれれば」と願っていた。レースは15チーム中12位。母親のみゆきさん(50)は、落車した垣田を気遣いつつ「結果は残念だったが、最後まで走れてよかった。4年後のロサンゼルス五輪では、パリでの経験を生かしてほしい」とさらなる成長を期待した。

「松山学院の誇り」

恩師や後輩 健闘たたえる

これから最盛期を迎える19歳を激励した。垣田先輩に続けと、今月下旬に開かれる世界選手権に挑む後輩たちも刺激を受けた。男子の金井健翔主将(18)は「マディソンでは前でレースを進めてかっよかった。初の五輪をしっかりと走りきって尊敬する」。女子の近田ちひろ主将(17)は、中学時代に同じレースを走った垣田に憧れ、沖縄県の親元を離れ松山学院に入学した。「世界選手権の代表に選ばれ、真穂さんに少しは近づけたかな」といい、「私も夢の五輪に向けて良い結果を残したい」と意気込んだ。(清家康尊)

【紙面編集】鈴木孝裕 石見植浩

2024.8.12

地軸

パリ五輪自転車トラック競技の女子マディソンに松山学院高出の垣田真穂選手が出場した。結果は落車しながらも走りきり15組中12位。まだ19歳、4年後に期待がかかる▲垣田選手の自転車にも目がとまった。空力を意識した形状のフレーム、駆動系のクランクやチェーンは左側に配置されている▲通常は右側にある。一説には、左側から自転車に乗るとき、チェーンがあると服が汚れるからとされる。左からまたがるのは右が利き足、左が軸足の人が多いため。それを反対にしたのはトラックが反時計回りだからだ。空気抵抗を軽減する効果があるという。トラックが反時計回りなのは、陸上競技で左足を軸足にした方が曲がりやすいから、とも▲左右や非対称に注目してみると面白い。女子やり投げの北口榛花選手のスバイクは左足がハイカット。表彰台は金の右側が銀。男子リレー決勝で日本チームはバトンを持ち替えず右、左、右、左とつないだ▲ただ、面白いばかりではない。ブレイキンに出場した難民選手団の女子選手は髪を隠していたバンタナを外し「アフガニスタン女性に自由を」のメッセージを背に演技した。が、後に失格に▲出場枠が初めて男女同数となった今大会。ロゴはパリンピックと共通、聖火トーチのデザインは左右対称と、細部まで平等を意識する。その会場でなお、失格を覚悟しながら自由を叫ばねばならない選手がいる。克服すべき非対称だ。

2024年8月1日(月) 愛媛新聞掲載<1面>
(掲載許可番号: d20240813-05)

2024年8月9日(金) 愛媛新聞掲載<1面>
(掲載許可番号: d20240813-04)

自転車 垣田(松山学院 出)組12位

【パリ愛媛新聞】渡部竜太郎【パリ五輪第15日の9日、自転車トラックの女子マディソンが行われ、垣田真穂(早大)・松山学院高出内野艶和(日本競輪選手会)組は15チーム中12位だった。垣田が序盤に落車するアクシデントがあった。(5・18面に関連記事)

垣田は6日の女子4000m団体追い抜きにも出場し、予選10位で1回戦に進めなかった。

PARIS 2024
みんなはれ!

県人アスリート

市可未明登場

垣田 真穂(19) 松山学院高出

自転車トラック女子マディソン決勝

10日午前1時9分

(現地時間9日午後6時9分)

2人1組で交代しながら走り、10周ごとのスプリント周回での獲得ポイントを争う。ペアを組むのは、同じ福岡県出身の内野艶和。国際大会の優勝経験もあり、メダル獲得を目指す。

2024年8月12日(火) 愛媛新聞掲載<18面>
(掲載許可番号: d20240813-07)

(第3種郵便物認可)

愛

媛

新

聞

2024年

PARIS 2024

苦闘 4年後への糧に

序盤のアクシデントが最後まで尾を引いた。自転車トラック女子マディソンの垣田、内野組は12位に終わり、目標のメダル獲得に遠く及ばなかった。垣田はレースの鍵を握る交代時に落車し、「全てが狂ってしまった」とうつぶしい。

落車「全て狂った」

マディソンは2人1組で交代しながらトラックを120周(計30分)し、10周ごとの通過順位に応じたポイントの合計で争う。交代のタイミングや回数は自由。

「全然うまく走れなかった」(垣田)。落車による体へのダメージは大きかった。さらに、戦術の変更を余儀なくされ、10周ごとの最後のスプリントは内野の担当に。垣田は「序盤から逆のパターンはあまり経験がなく、流れをつくれなかった」と悔やむ。

意地見せポイント

それでも、落車後すぐの20周目では4着に入り、ポイントを獲得。意地を見せたが、その後は先頭集団から遅れてポイント争いに加われなかった。

チーム最年少19歳の垣田には自転車競技を始めた時からの目標がある。それは2028年ロサンゼルス五輪での金メダル。「この経験を次につなげて、4年後は(内野)艶和さんと絶対金メダルを取りたい」。パリ五輪はゴールではなくスタート。垣田のストーリーは、まだ始まったばかりだ。(パリ愛媛新聞—渡部竜太郎)

一緒に戦ってくれた垣田選手らに感謝

内野艶和の話 課題しか残ってなくて、本当に悔しい気持ち大きい。ここま

で一緒に戦ってくれた垣田選手、スタッフやコーチ、家族に感謝したい。

垣田組マディソン12位

9日の女子マディソンで内野艶和(日本競輪選手会)垣田真穂(早大)・松山学院高出組は12位だった。女子スプリントの回戦は佐藤水菜(日本競輪選手会)がカネケ選手に勝ち、3回戦に進んだ。



自転車
トラック

(1面参照)

県勢の戦い 現地取材

【パリ愛媛新聞】渡部竜太郎(28)は五輪が11日夜(日本時間12日未明)に閉幕した。大会期間中、現地で愛媛県勢の戦い取材し、数々のドラマに立ち会うことができた。

県勢はゴルフ男子の松山英樹(32)と松山市出身の悲願の銅メダルを獲得し、日本の第一人者として実力を発揮。一方、他の選手は世界の壁の高さを痛感した大会だった。

松山は銅メダルが決まった瞬間、笑顔に満ちあふれていた。今大会に懸けていた思いが爆発したのだ。メダルを逃した2021年の東京五輪の雪辱を見事に果たした。28年のロサンゼルス五輪にも「絶対出たい」と意欲を示し、次こそは金メダルを、と期待が高まる。

松山と同じく2大会連続出場したバスケッ

第一人者が実力発揮

高い世界の壁も痛感

トボール女子の宮崎早織(28)はENEOS、聖カタリナ学園高出身。日本は3戦全敗で1次リーグで姿を消し、早すぎる幕切れとなった。宮崎は銀メダルを獲得した東京五輪は控えだったが、今回は主力としてプレー。だが、日本は相手国に研究され、目標の表彰台に遠く及ばなかった。

新型コロナウイルス禍の東京五輪では松山、宮崎ともに無観客での試合を経験。今大会はいつも通りの五輪へと戻り、松山は「東京は寂しかったが(パリは)楽しかった」とギャラリーの熱量を感じていた。

初挑戦の若い2人とっては、ほろ苦いデビューとなった。レスリング男子グレコローマンスタイル67kg級の曾我部京太郎(23)はALSOK、今治西高出身。1回戦

で、世界選手権王者に何もできず敗戦。前へと出続ける積極的なスタイルが封じられ、取材エリアでもショックを隠せない様子だった。

自転車トラック女子の垣田真穂(19)は早大、松山学院高出身。4000m団体追い抜き予選で日本記録を更新するも最下位の10位に終わり、突破できなかった。メダルを狙ったマディソンは落車もあり、15組中12位。世界の強豪にはね返された。ただ、2人とも一握りのアスリートしか立っていない世界最高峰の舞台で、確かな足跡を刻んだ。パリを再出発の地として、この経験を生かし、4年後には笑顔を見せてほしい。

ビーチバレー女子の長谷川暁子(38)はNTTコムウェア、元愛媛県競技方向上対策本部。初めて五輪の舞台に立ち、ベスト16。1次リーグが設けられた04年アテネ五輪以降、日本女子では初の決勝トーナメントに進出し、新たな歴史をつくった。

28年ロサンゼルス五輪は、いかなる顔ぶれとなっているのか。あと一歩のところまでパリ行きを逃した選手の逆襲もあるだろう。彗星(すいせい)のごとく現れるアスリートがいるかもしれない。今から4年後が楽しみでならない。